

# カリイ 竹パウダーに活用

## 竹粉碎機で効率的に処理

農業資材専門店「農援」や農産物直売所「食の駅」を展開するフェア



ムドゥ（群馬県前橋市）は、山形県山形市のカリイ高橋和成社長、山形県山形市鑄物町46-11が製造する竹粉碎機「KDC-1303B」をこのほど安中市のファームドゥ農援「S」安中店に導入。稼働から3カ月が経

過し、その効果を高く評価している。

導入の背景には、竹を微粒子状に粉碎し発酵させ、牛糞や液肥などと混合して「竹パウダー」を

活用した資材を製造、自社畑に散布する取り組みを進めてきた。

しかし従来機は処理速度が遅く、竹1本の粉碎に10〜15分を要することもあり、効率化が課題となっていた。

比較検討の末に選んだのがカリイの「KDC-1303B」。決め手は圧倒的な処理速度とパワーだった。

導入後は竹1本（約4m）の粉碎が1〜2分で済むように。その結果、これまで1トンのフレコン袋を満タンにするのに1週間かかっていたが半日になった。担当者は「何

より速度。作業が秒殺で進むのが一番の魅力」と強調する。

またエンジン式のため200V電源を必要とせず、現場への持ち込み作業も可能になった。トラックに積むことで竹藪に搬入し粉碎することができするなど、機動力も評価のポイントだ。

製造した「竹パウダー」は発酵させ畜糞と混合して堆肥に。自社圃場でトマトや葉物野菜に使用している。この堆肥は、作物の生育も早く、糖度の高いトマトが採れるなど効果が実証されている。

更に同社は、竹林整備に悩む自治体も多い群馬県内で、竹を「廃棄物の有効活用」と位置付け、地域貢献につなげる方針だ。「今回の導入は、社会的意義だけでなく投資としても十分な成果がある」との声もある。カリイ製品の導入は、資源循環と農業経営の両立を後押しする一歩となった。



導入から3カ月が経ち同機の性能を高く評価していた